お知らせします

令和6年度 伊豆の国市 決算

市議会9月定例会で、伊豆の国市の令和6年度決算が認定されました。昨年度1年間に皆さんの税金や国・県からの補助金などが、市にどのくらい入り、どのように使われたかをお知らせします。

問 財務課 ☎055(948)1414

※四捨五入しているため、数値は一致していない場合があります。

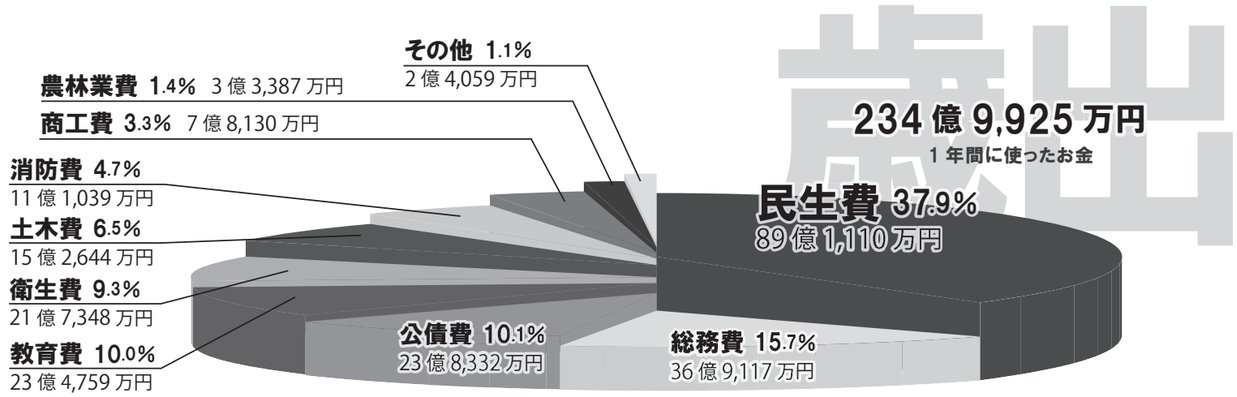
歳入

令和6年度の歳入（1年間に入ってきたお金）は、前年度に比べ、16億7,968万円の増額となりました。
・「地方交付税」が5億914万円の増。深沢橋架替事業や庁舎大規模改修事業などにより「市債」が5億4,534万円の増。

一般会計

一般会計とは、市の予算の中心となる会計で、市政運営の基本的な経費を計上しています。

歳出



歳入−歳出＝8億6,518万円は、令和7年度の財源として繰り越します。

令和6年度の歳出（1年間に使ったお金）は、前年度に比べ、18億110万円の増額となりました。
・定額減税補足給付金などにより「民生費」が3億7,487万円の増。
・庁舎大規模改修事業の実施や庁舎建設基金の積み立てなどにより「総務費」が6億4,662万円の増。

財政健全性を示す指標

伊豆の国市の健全化判断比率や資金不足比率において、基準を超える数値はありませんでした。

◆資金不足比率（令和6年度決算）

特別会計の名称	伊豆の国市 資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	―※	20.0%
簡易水道事業会計	―※	20.0%
下水道事業会計	―※	20.0%

※赤字額や資金不足額がなく、比率が算出されない場合「―」で記載しています。

◆健全化判断比率（令和6年度決算）

判断比率項目	伊豆の国市 健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	―※	12.95%
連結実質赤字比率	―※	17.95%
実質公債費比率	7.2%	25.0%
将来負担比率	17.0%	350.0%

特別会計など

会計区分	歳入	歳出
国民健康保険	53億4,383万円	52億1,909万円
後期高齢者医療	8億5,658万円	8億5,389万円
介護保険	46億4,145万円	45億8,770万円

会計区分		収入	支出
水道	収益的	7億4,804万円	7億3,584万円
	資本的	1億5,438万円	2億8,272万円
簡易水道	収益的	1,480万円	1,177万円
	資本的	1億2,720万円	1億2,198万円
下水道	収益的	15億2,067万円	13億5,607万円
	資本的	3億1,457万円	6億4,747万円

基金・市債の残高

■一般会計基金残高（令和6年度）

基金現在高	90億3,444万円
（前年度比）	＋4億6,416万円
市民一人当たり	19万7,297円

■一般会計市債残高（令和6年度）

市債現在高	265億5,459万円
（前年度比）	△1億6,894万円
市民一人当たり	57万9,909円

市債残高の内訳	
A	197億円
B	69億円
計	266億円

A…市債のうち、将来的に国の交付税の対象となる借金
B…市債のうち、実質的な市の借金

市税の内訳

- 固定資産税 33億3,201万円
- 市民税 27億786万円
- 市たばこ税 3億6,309万円
- 軽自動車税 1億7,822万円
- 入湯税 8,255万円

計　66億6,373万円

市民一人当たりの行政経費

対象人口（住民基本台帳）
令和7年4月1日現在　45,791人

民生費 19万4,604円
- 総務費 8万609円
- 公債費 5万2,048円
- 教育費 5万1,267円
- 衛生費 4万7,465円
- 土木費 3万3,335円
- 消防費 2万4,249円
- 商工費 1万7,062円
- 農林業費 7,291円
- その他 5,254円

計　51万3,185円

寄附金の使い道

（ふるさと納税制度を活用した寄附を除く）

使途の希望	寄附金額	件数	内容
教育の振興のため	3,864,800円	4件	中学校の吹奏楽器の購入や修繕などに活用
韮山反射炉保全のため	1,448,051円	1件	韮山反射炉ガイダンスセンターのメインシアター映像の英語字幕作成に活用
花火大会の運営・開催のため	851,787円	1件	伊豆の国市観光イベント事業費補助金に活用
その他	608,700円	4件	街頭防犯カメラ設置などに活用

※令和6年度に基金へと積み立てた寄附金は、寄附者の意向を十分に考えた上で、次年度以降の事業の財源として、効果的に活用させていただきます。

【自主財源】
市税など、市が自主的に得ることのできる財源。自主財源が多いほど行政活動の自主性と安定性を確保できます。

【依存財源】
国や県などから交付されたり、割り当てられたりする財源。